

1 2030 年における地域のめざす姿

○「食」産業の充実・強化

東青地域では、様々な業種が産業の垣根を越えて相互に結び付く「食」産業が形成され、多くの地域住民が「食」産業で働くなど様々な形で携わっています。

「食」産業の基盤となる農林水産業を担う多様な「地域経営体」が、労働力不足などの地域課題の解決に主体的に取り組むことで、農山漁村地域の持続的・自立的な経済・社会活動を支えています。

農林水産業、商業、工業の連携により、付加価値を高めた商品が開発され、販売されています。また、域外に向けて戦略的に販売する「ブランド化」に向けた取組や、地元で生産されたものを地元で消費する「地産地消」の取組が進んでいます。

○着地型観光の起点機能の確立

陸・海・空の交通拠点が集中する地の利を生かして、県内着地型観光の起点として、本県観光を支える地域となっています。

北海道新幹線による時間短縮効果や交流圏の拡大などにより、津軽海峡を挟んだ半島間の交流が盛んになっています。

また、陸奥湾をフィールドとする海の体験から、雪を楽しむウインタースポーツまで、四季の彩りとともに年間を通じて楽しむことができるメニューが揃っており、県内はもとより、国内外から選ばれる地域となっています。

○優れた生活・仕事環境を生かした産業の集積

働く者にとっては、都市的空間と青い森と海と空の自然豊かな空間とが近接する優れた生活・仕事環境を備えた「働きやすい地域」となっており、県都を擁することで企業などの拠点が集中し、知識集約型産業や物流産業を中心に企業集積が進んでいます。

企業にとっては、必要な情報通信インフラが十分に整備されていることに加え、国内外との交通のハブ機能を備える「戦略的事業展開を図る上で優位性のある地域」となっており、企業は、高いレベルのノウハウを海外に提供し、国際的に高く評価されています。

企業の活動を支える人財については、地域内外の大学が企業ニーズを踏まえ

つつ、連携して育成に当たり、質の高い労働力を安定的に供給できる体制が整備されています。

○共に支え合い安心して老後を迎えることができる地域社会

人口減少や少子化、高齢化が進行する中においても、住民や市町村などの自発的・主体的な取組により、地域コミュニティが十分に機能する地域社会となっています。

地域住民は、一人ひとりが生きがいを持ち、日々の暮らしを楽しみながら、健康で長生きし、安心して老後を迎えています。また、この地域で子どもを産み育てたいと思う人が増えています。

2 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

（１）地域の概要

○陸奥湾に面する豊かな風土と資源

東青地域は、面積が 1,478 平方キロメートル（県土の 15.3%）で、全ての市町村が陸奥湾に面して帯状に連なっています。

気候は日本海側気候であり、夏は偏東風（ヤマセ）の影響を受けやすく、冬は降雪量の多い積雪寒冷地帯です。また、津軽海峡、陸奥湾の豊かな海で獲れた水産物や八甲田山からの良質な水で育成された農産物など豊富な食資源や、多くの温泉が存在します。

○県都を擁する交通の要衝

東青地域は県都青森市を擁し、本県の中心的な役割を担うとともに、東北新幹線と北海道新幹線の 2 つの新幹線駅、フェリーやクルーズ船のターミナル機能を持つ青森港、国内外からの空の玄関口である青森空港など、陸・海・空の交通拠点が集中する交通の要衝となっています。

○多くの歴史ロマン

東青地域には、日本最大級の縄文集落跡である特別史跡三内丸山遺跡を始め、中世の義経北行伝説ゆかりのお寺である義経寺、平安時代に訪れた円光大師（法然）の教えから人々が利用するようになったと言われている浅虫温泉、江戸時代には蝦夷地へと行き来する人々でにぎわった松前街道、幕末に吉田松陰が北方の守りの重要性を説くために訪れたみちのく松陰道、世界へ誇る昭和の大事業の足跡を後世に伝える青函トンネル記念館など、多くの歴史ロマンが残されています。

○豊かな風土から生まれた多彩な文化

東青地域では、毎年 250 万人を超える観光客が訪れる日本屈指の祭典である青森市の青森ねぶた祭を始め、県外からの若者が集まる今別町の荒馬まつり、町内外から地域の特産品や芸能が一堂に会する外ヶ浜町港まつりなど、各地で様々な催しを楽しむことができます。

また、20 世紀を代表する世界的板画家棟方志功や、方言詩集で津軽の風土を歌った高木恭造、津軽三味線の名手高橋竹山など、豊かな風土の中で、芸術家、作家など、様々な分野で活躍をする人物を輩出しています。

(2) 地域の特性と課題

○構成市町村ごとの人口と世帯数

東青地域の人口は 31 万 640 人で、県全体の 23.7%を占めており、その 9 割以上が青森市に居住しています。(表 1)

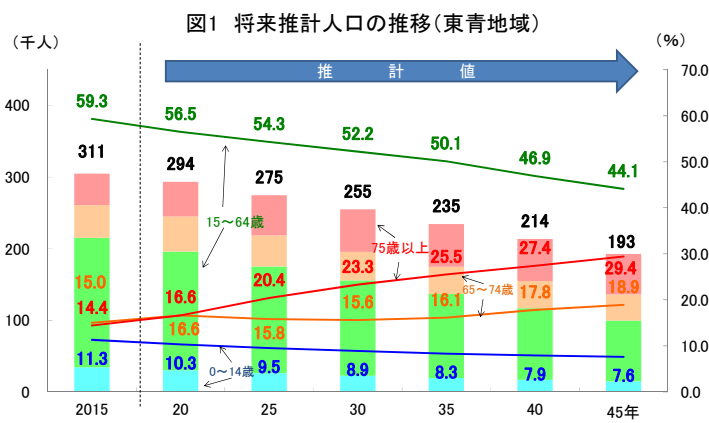
表 1 構成市町村の人口・世帯数

	青森市	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	合計
人口(人)	287,648	11,142	2,756	2,896	6,198	310,640
世帯数	118,234	3,971	1,277	959	2,577	127,018

資料:総務省「平成27年国勢調査」

○将来推計人口

2030 年の東青地域の人口は約 25 万 5 千人と 2015 (平成 27) 年に比較して約 5 万 6 千人減少し、75 歳以上の割合は 23.3%と 2015 年に比較して 8.9 ポイント上昇するものと推計されています。(図 1、表 2)



資料:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来推計人口(平成30年3月推計)」

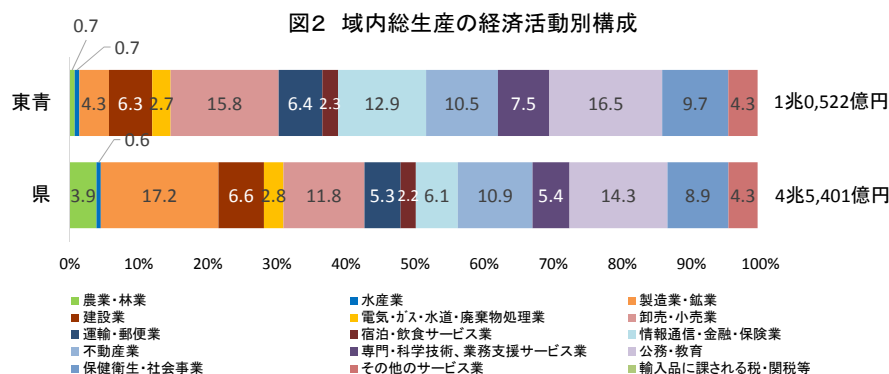
表2 構成市町村別将来推計人口

	2015年	2030年	2045年
青森市	287,648	239,472	183,528
平内町	11,142	7,834	4,846
今別町	2,756	1,609	798
蓬田村	2,896	2,183	1,477
外ヶ浜町	6,198	3,773	2,024
計	310,640	254,871	192,673

資料:国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計)

○域内総生産の経済活動別構成

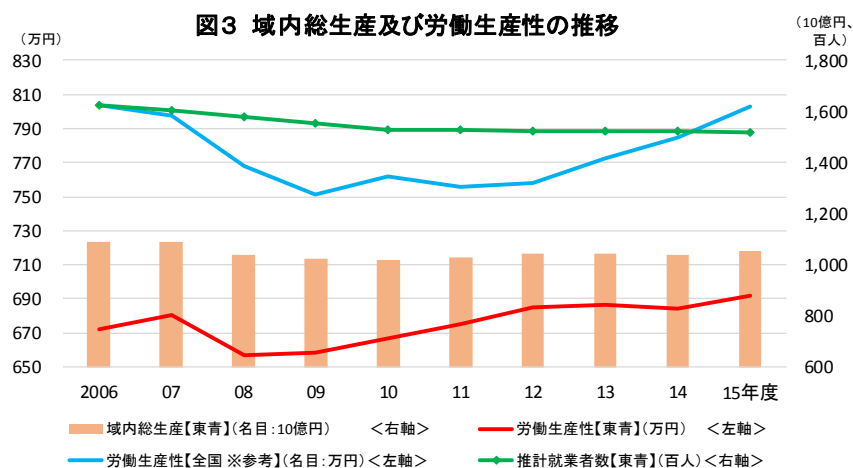
域内総生産は 1 兆 522 億円となっており、県全体の 23.2%を占めています。内訳を見ると、「公務・教育」、「卸売・小売業」の割合が高くなっています。県全体と比べると、「情報通信・金融・保険業」や「卸売・小売業」、「公務・教育」の割合が高く、「製造業・鉱業」や「農業・林業」の割合が低くなっています。（図 2）



○域内総生産及び労働生産性の推移

域内総生産は、推計就業者数とともに減少傾向にありましたが、2010（平成 22）年度を底として減少傾向に歯止めがかかり、2011（平成 23）年度以降はわずかながら増加傾向を示しています。

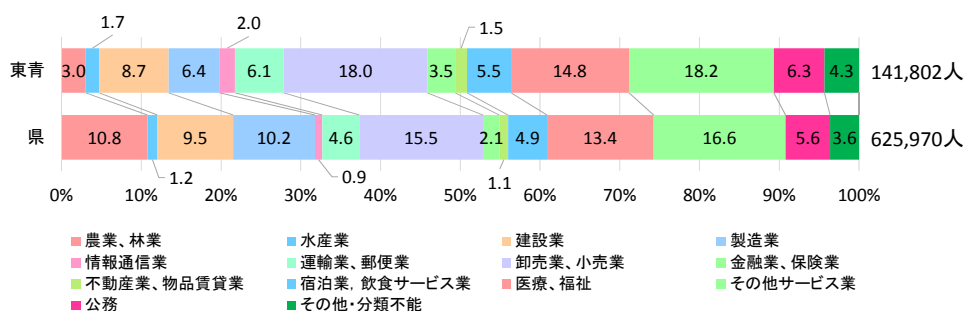
労働生産性について見ると、2009（平成 21）年度に上昇に転じ、以降は全国の動きと同様、上昇傾向を示しています。（図 3）



○就業人口構成

就業人口は14万1,802人となっており、県全体の22.7%を占めています。内訳を見ると、「教育、学習支援業」や「生活関連サービス業、娯楽業」などを含む「その他サービス業」の割合が最も高く、次いで、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の割合が高くなっています。県全体と比べると、「その他サービス業」や「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の割合が高く、「農業、林業」の割合が低くなっています。（図4）

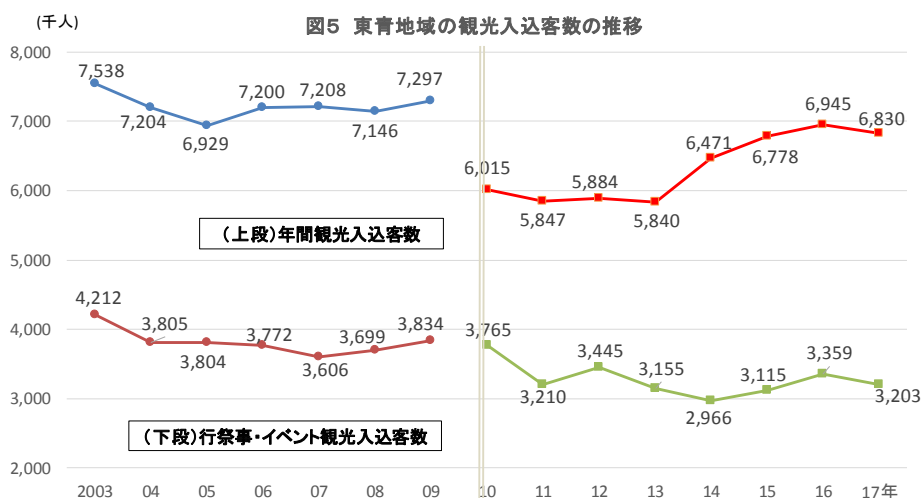
図4 地域の就業人口構成



○観光入込客数

年間観光入込客数は、2003（平成15）年以降、減少傾向を示していましたが、2006（平成18）年からは横ばいとなり、2014（平成26）年以降は増加傾向にあります。

また、行祭事・イベント観光入込客数については、2004（平成16）年以降、横ばいの傾向にありますが、2015（平成27）年及び2016年（平成28年）は増加し、観光施設、イベント等の両面で、北海道新幹線開業に伴う効果が見られます。（図5）



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

※ 2010年以降は統計手法の変更により、それ以前と単純比較できない。

※ 2014年以降の「年間観光入込客数」は、一部の観光地点での計測方法変更の影響により、大幅増となっている。

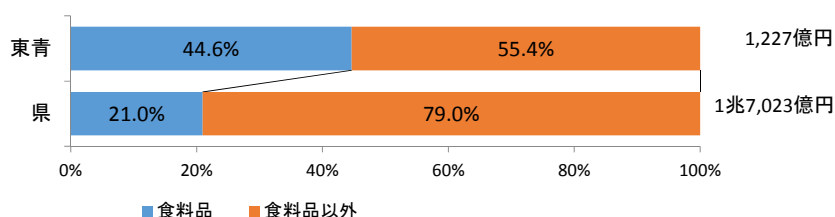
※ 「行祭事・イベント観光入込客数」は、当該年の入込客数が調査基準に満たない行祭事・イベントが対象外となるため、各年で単純比較できない。

○製造業で大きなウェイトを占める「食料品」

製造業における製造品出荷額等に占める食料品の割合は 44.6%と大きなウェイトを占めており、県全体と比較しても高い割合となっています。（図 6）

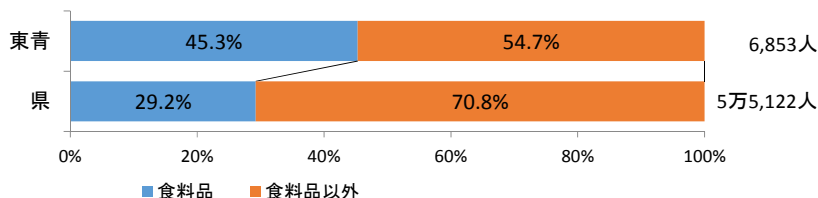
また、全製造業に占める従業員数の割合も、食料品製造業が 45.3%と大きなウェイトを占めています。（図 7）

図6 製造品出荷額等に占める食料品の割合



資料：県企画政策部「平成27年青森県の工業」

図7 全製造業に占める食料品製造業の従業員数の割合

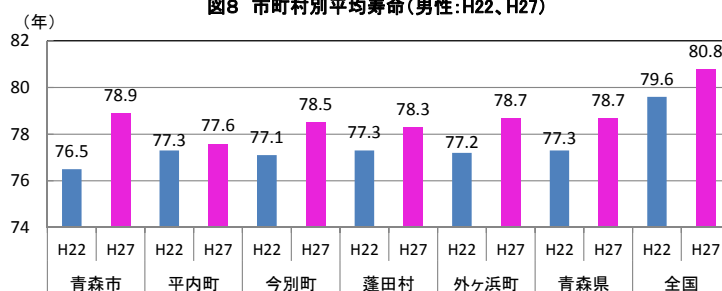


資料：県企画政策部「平成27年青森県の工業」

○平均寿命

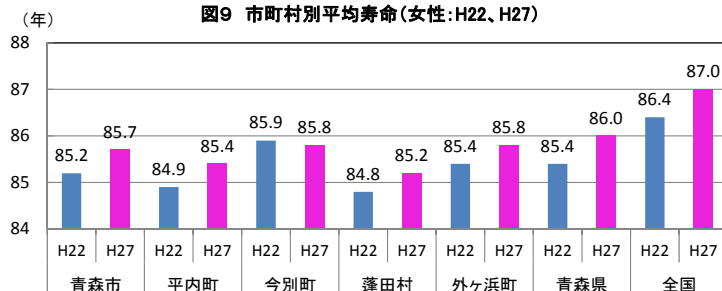
東青地域の平均寿命は、全ての市町村で男女とも全国を下回っているものの、前回（2010（平成 22）年）からの伸び幅を見ると、男性では管内5市町村のうち3市町が全国を上回るなど、着実に延伸しています。（図 8、図 9）

図8 市町村別平均寿命(男性:H22、H27)



資料：厚生労働省「平成22、27年市区町村別生命表」

図9 市町村別平均寿命(女性:H22、H27)



資料：厚生労働省「平成22、27年市区町村別生命表」

○特定健診実施率、がん検診受診率等

東青地域の特定健康診査実施状況を見ると、実施率が県を下回る市町村があるほか、特定保健指導実施率が県を大きく下回っている市町村もあるなど、実施率の向上が求められるところです。（表3）

また、がん検診受診率については、一部県を上回る市町村があるものの、総じて県内では下位を占める状況となっており、受診率向上が大きな課題となっています。（表4）

表3 市町村別特定健康診査等の実施率と県内順位（東青地域）

（単位：％、位）

市町村名	特定健康診査		特定保健指導	
	実施率	順位	実施率	順位
青森市	40.0	17	40.7	26
平内町	40.9	15	40.2	28
今別町	33.1	29	15.0	40
蓬田村	36.7	25	23.5	35
外ヶ浜町	31.9	31	18.6	38
県	36.3		42.6	

資料：青森県国民健康保険団体連合会「平成28年特定健診・特定保健指導実施結果」

表4 市町村別がん検診受診率の推移と県内順位（東青地域）

（単位：％、位）

市町村名	胃がん				大腸がん				肺がん			
	受診率	順位	精密検査受診率	順位	受診率	順位	精密検査受診率	順位	受診率	順位	精密検査受診率	順位
青森市	18.0	20	89.6	13	30.3	15	86.2	7	12.4	37	95.8	11
平内町	7.4	40	88.5	16	12.8	39	82.8	15	12.1	38	100.0	1
今別町	17.5	22	100.0	1	24.2	23	95.5	1	26.7	18	75.0	34
蓬田村	9.8	37	90.0	9	14.2	37	60.7	37	15.3	34	75.0	34
外ヶ浜町	15.4	29	86.4	19	18.3	34	89.7	2	19.4	27	95.0	14
県	17.3	－	81.8	－	23.9	－	77.2	－	18.7	－	88.7	－

資料：厚生労働省「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」 ※精密検査受診率は平成28年度報告に基づき算出

3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) 安全・安心で優れた農林水産物の産地づくり

「食」産業の基盤となる農林水産業の維持発展に向けて、農業者の経営発展や営農組織の育成・連携強化、様々な水産資源を生かした漁業経営の複合化など、農山漁村を支える経営体を育成する「地域経営」の取組を促進します。

また、消費者ニーズなどを踏まえた安全・安心で競争力のある農林水産物を、安定して持続的に供給できる体制を強化し、産地づくりを進めます。

【主な取組】

- ①地域経営体への発展を見据えた経営感覚に優れた担い手の確保・育成
- ②集落営農組織の法人化と組織間連携等による地域営農体制の強化
- ③「こだわり」のある産地の形成
- ④「良品」生産力の強化及び複合経営の推進による農林水産業の経営安定

(2) 地域資源の高付加価値化と販売の促進

「食」を始めとして、地域内の様々な業種が産業の垣根を越えて相互に結び付き、連携を強化することで、地域資源の付加価値を高めるとともに、販売体制を強化し、生産・加工を含めた総合的・戦略的な外貨の獲得を図ります。

また、地域資源を活用した体験メニューの創出など、観光の観点からの資源の組合せや連携を進めることによる高付加価値化を図ります。

【主な取組】

- ①産学官金連携や農商工連携による商品開発や加工・提供の促進
- ②地域資源の発掘・活用と加工・販売を担う次世代の多様な人財の育成
- ③生産・加工・販売のネットワーク化による販売力の強化とブランドイメージを活用した販売促進
- ④地域資源を活用したグリーン・ツーリズムの推進

(3) 地域の魅力づくりと広域観光の推進

2つの新幹線駅や大型クルーズ船が寄港できる青森港、国内外からの玄関口となる青森空港を始め、陸・海・空の交通拠点が集中する地の利を生かし、この地域ならではの魅力の創出を進め、観光客の誘致と地域内での滞在時間や消費の拡大を図ります。

津軽半島や夏泊半島と、下北半島や道南地域との広域での交流人口の拡大を図ります。

【主な取組】

- ①北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業効果の持続的な獲得に向けた取組の促進
- ②交通拠点を生かした魅力づくり、にぎわいづくり、生業づくり
- ③食、歴史、文化、温泉など多彩な資源を生かした通年観光化
- ④半島間の連携による交流の促進

（４）一人ひとりが健康でいつまでも住み続けられる地域づくり

健康で長生きできる地域の実現に向けて、三大死因など生活習慣病のリスクを回避するため、生活習慣の改善について、一人ひとりが理解し、行動に移すことができるよう、関係機関が連携して取り組みます。

また、人口減少や少子化、高齢化が進行する中であっても、地域における保健・医療・福祉体制の充実、地域づくりや生活支援サービスを支える多様な担い手の確保・育成、交通や買物などの生活機能の維持・確保を図り、いつまでも住み続けられる地域をめざした取組を進めます。

【主な取組】

- ①一人ひとりが正しい知識に基づき、主体的に生活習慣を改善するための普及啓発と環境づくりの推進
- ②食生活の改善、運動習慣の定着、禁煙の推進等による生活習慣病の発症予防と特定健診実施率、がん検診受診率等の向上による重症化予防の推進
- ③自治会、地域商店街、地域づくり団体等が行う地域コミュニティ活動の活性化
- ④地域を支える担い手の育成と地域に対する愛着心を育む活動の促進
- ⑤支え合い、安心して暮らせる生活環境づくり